

2014 年度第 2 回バレーボール学会理事会

1. 日時：2014 年 11 月 8 日（土）13：30～
2. 場所：日本女子体育大学 北館 1 階 N101 教室
3. 出席者予定者：遠藤俊郎会長，河合学理事長，石手靖，小川宏，黒川貞生，小林宣彦，田中博史，橋本吉登，古澤久雄，湯澤芳貴各理事，吉田清司
出席：~~18~~名 欠席：~~20~~名（内無連絡3名） 委任状：16名
4. 報告 11 19
 - ① 2014 バレーボールミーティング報告（実行委員長）
 - ② 次年度研究補助費募集・審査日程確認（総務委員会）
 - ③ 各委員会関係
 - （1）編集委員会
 - （2）企画委員会
 - （3）渉外委員会
 - （4）総務委員会
5. 議題：
 - ① 第 20 回大会準備進捗状況について（実行委員長）
 - ② 2015 バレーボールミーティング開催について（企画委員会）
 - ③ バレーボール指導教本の作成について（会長）
 - ④ 「バレーボールの歴史」（仮称）出版WGについて（理事長）
 - ⑤ 電子版 Volleypedia（仮）について（理事長）
 - ⑥ 学会 HP のサーバー増強について（総務委員会）
 - ⑦ 学会口座変更に伴う会則の改正及び細則の制定について（総務委員会）
 - ⑧ 会長選挙開票結果について（選挙管理委員会）
 - ⑨ 名誉会長，顧問の推薦について（理事長）
 - ⑩ 理事選挙の実施について（理事長）
 - ⑪ その他

2014年 11月 8日

2014 バレーボールミーティング報告

1. 参加者 (136名)

- (1) 日本バレーボール学会 48名
(一般会員：34、一般：9、大学生：5)
- (2) 指導者協議会義務研修会 88名
- (3) 指導者義務研修実績登録 106名
(学会：18、協議会：88)

2. ミーティング概要

- (1) 別紙、「2014 バレーボールミーティング概要」を参照

3. 決算報告

- (1) 別紙、決算報告書を参照
- (2) ミーティング参加費については、50名分の参加費収入となっている。
※ 学会員1名、学生1名の事前振込あり当日欠席
- (3) 広告収入は4団体からの協賛金による。
アシックスは年間契約のため学会大会予算に計上 (早稲田大・松井氏)
- (4) 会計監査未処理 (11月8日現在)

4. 特記事項

- (1) バレーボールミーティング運営にあたり、キャンパス内の誘導 (駐車場から会場など) において男子バレーボール部部員17名の協力を依頼した。

以上、ご報告申し上げます。

2014 バレーボールミーティング実行委員会

委員長：横矢 勇一 印略

資料 1-1

2014年バレーボールミーティング概要

会 期：2014年8月17日（日）

会 場：大東文化大学 東松山キャンパス 3号館 0201 教室

テーマ：「一貫指導から求めるジュニア～ユース世代の育成」

2014年8月17日（日）、大東文化大学 東松山キャンパスにおいて、一貫指導から次世代の育成をテーマに、基調講演、シンポジウムが開催された。

また、今回も昨年に引き続き、埼玉県バレーボールスポーツ指導者協議会（義務研修会）と共催となったため、136名の参加者が集まり、テーマを通じてバレーボール選手育成における一貫指導の構築に関わる共通認識を考えるきっかけになったと思われまます。

13：40～15：40 第1部：基調講演

「JVAにおけるゴールドプラン ～これからの普及と一貫指導について～」

司 会：田中 博史（大東文化大学）、湯澤 芳貴（日本女子体育大学）

演 者：亀ヶ谷 純一（JVA国内事業本部指導普及委員会委員長）

緒方 良（JVA国内事業本部指導普及委員会副委員長）

基調講演では、日本バレーボール協会の「ゴールドプランの推進強化」と「一貫指導の体制構築」の考え方や具体的な施策、将来性などに関する現状や課題、今後の計画について話題提供していただきました。

亀ヶ谷 純一 氏は、日本バレーボール協会における指導普及委員会の役割、ゴールドプラン（競技人口拡大プロジェクト）への取り組み、一貫指導システムについて解説されました。

ゴールドプランは、「将来の全日本候補選手」となるべき世代である小学生・中学生を対象とした若年層拡大プロジェクトであり、指導者講習会・研修会、バレーボール教室、ソフトバレー授業支援、幼稚園・保育園支援事業を全国加盟団体・指導普及委員会と連携して推進していることを説明された。現状では、少子化、スポーツニーズの多様化、指導者不足を理由に小学生女子競技者の減少が顕著であり、また中学生男子競技者は増えているが、団体が減少しており受け皿の問題が顕著であるとも述べられた。

一貫指導システムは、発掘、選抜・育成、強化の3段階から構成されており、発育発達段階に併せたカリキュラムに沿って実施されていると説明された。選手発掘の観点では、特に長身であることが選考基準として重要視される。その後、都道府県大会、長身者発掘合宿、全国大会などを経てナショナルチーム（シニア、ユニバ、ジュニア、ユース）を選抜するために東西対抗戦や優秀選手合宿などが実施され、代表選手の育成、強化へ繋げているといった事業概略を紹介され、最後に「バレーボールの面白さをいかに伝えていくか」という原点に戻る必要性を述べられた。

緒方 良 氏は、指導普及委員会の取り組みのひとつである基本技術統一化について解説されました。バレーボールにおける基本技術は初心者から上級者まで同じであるという考えから、どの指導ステージ（小学生、中学生、高校、大学など）であっても基本となる技術の指導は同じものでなければならないことや、スポー

ツに関わる人たちは、スポーツを成立させる「心・技・体」を十分理解し、幼児から老人まで如何に「楽しむ」ことが出来るかを考える必要性を述べられた。

そこで、指導普及委員会では「技」にスポットをあて、バレーボールを楽しむためのひとつとして、自分のイメージしたとおりに「体・ボールをコントロールできる」ことを取り上げ、全ての世代に適合する共通部分を抽出し基本技術の統一化を図り、指導要点の整理に務めていることが述べられた。

15:50~17:25 第2部：シンポジウム

「一貫指導から求めるジュニア～ユース世代の育成」

司 会：田中 博史（大東文化大学）、湯澤 芳貴（日本女子体育大学）

演 者：飯塚 初義（習志野市立習志野高等学校 男子バレーボール部監督）

赤木 貴雅（つくばユナイテッド Sun GAIA マネージャー）

第2部のシンポジウムでは、飯塚氏、赤木氏に、実際のユース、ジュニア世代の指導に関わって実際の指導現場の現状と今後の課題などについて言及していただきました。

飯塚 初義 氏は、4つのテーマを題材として、ユース世代の指導では下記の内容が重要であることを自身の指導経験などを交えて紹介されました。

①人間性の育成

普段の生活習慣がその選手のプレーに明確に現れることを痛感したことから、人間性の育成（マナー、振る舞い、表情、目標へのひた向きさなど）に重点をおいた指導を追究。

②技術面のこだわり

ファーストコンタクト（レセプションとディグ）の精度およびブロック技術。

③経験（キャリア）を積ませる環境

ユース世代における大きな大会に出場し、できれば優勝経験を積ませる。また海外のチームと交流試合、国際試合を肌で感じられる環境を作る。

④魅力あるチーム作り

- 1) コーチングスタッフの充実
- 2) スカウトの大切さ
- 3) 進路指導
- 4) 応援の力

チーム作りに関しては、選手の人間性・技術的育成のみならず、上記のキーワードに対しても指導の要素として力を注ぐことが必要である。

赤木 貴雅 氏は、つくばユナイテッド Sun GAIA（つくば市内の体育館を拠点とし、幼稚園児～中学生約130名の登録生をもつバレーボールクラブ）での活動事例と今後の施策について紹介されました。

①バレーボールの普及

スポーツがもたらす教育効果およびバレーボールの特性に関する理解から「バレーボールは仲間との高いコミュニケーション能力を身に付けるには最適なスポーツである」という推進活動の拡大

②導入期の重要指導内容

1) どんな集団にも適応できるコミュニケーション能力

集団行動のマナーを理解し、チームメイトと良い練習環境を築く力、礼儀、我慢など

2) 多様な戦術に対応できる基礎技術と基礎能力

技術力と調整力の定着、技術・調整力を安定して発揮するための基礎体力

3) バレーボールで使用する専門的な知識

専門用語の学習と実践

③中学校バレーボールの現状とニーズ

部活動：目標となる大会が多いが、指導者・練習量が不足

クラブ：専門的な指導者、安定した練習時間はあるが、大会が少なく費用が掛かる

④クラブとしてのメリットとデメリット

学校外（部活動）で練習することやVリーグ選手が指導することについてのメリット・デメリットについて言及され、最後に TEAM Sun GAIA の今後の課題について述べられた。

以上のような内容から、ジュニア、ユースそれぞれの年代における現状や問題点を認識することで、各カテゴリーにおける指導者・関係者が、改めて何をすべきかを考えさせられる機会になったと思われる。ただ、どのような立場であっても「バレーボールの発展」を願っていると感じられた。

【文責】横矢 勇一（大東文化大学）

2014年度バレーボールミーティング予算書

【収入の部】

項目	金額	摘要
ミーティング補助費	¥200,000	本部2014年度予算
ミーティング参加費	¥30,000	学会員：@1,000 × 30
	¥20,000	非会員：@2,000 × 10
	¥5,000	学 生：@ 500 × 10
指導者協議会分担金	¥100,000	分担金
広告収入	¥100,000	広告協賛金
合計	¥455,000	

【支出の部】

項目	金額	摘要
講師費	¥120,000	講師謝礼：@30,000 × 4名
プログラム印刷費	¥100,000	ミーティングプログラム
通信費	¥30,000	ミーティング案内郵送
事務費	¥20,000	消耗品等
食費	¥36,000	弁当：@800 × 30
会議費	¥30,000	実行委員会会議、諸会議
雑費	¥119,000	
合計	¥455,000	

2014年度バレーボールミーティング決算報告

【収入の部】

項目	金額	摘要
ミーティング補助費	¥200,000	本部2014年度予算
ミーティング参加費	¥29,000	学会員：@1,000 × 29
	¥9,000	学会員（当日）：@1,500 × 6
	¥7,500	非会員：@1,500 × 5
	¥8,000	非会員（義務研修）：@2,000 × 4
	¥3,000	学 生：@ 500 × 6
指導者協議会分担金	¥60,000	
広告収入	¥40,000	広告協賛金（4団体）
合計	¥356,500	

【支出の部】

項目	金額	摘要
講師費	¥120,000	講師謝礼：@30,000 × 4名
プログラム印刷費	¥149,364	プログラム作成費および振込手数料
通信費	¥4,168	学会備品送付料
事務費	¥6,585	消耗品等
食費	¥28,000	弁当：@700 × 40
	¥17,000	学生運営協力費（食事代）
会議費	¥25,902	実行委員会会議、諸会議費
雑費	¥3,539	USBメモリー、メモリーライター
合計	¥354,558	
繰り越し金	¥1,942	
総計	¥356,500	

以上、ご報告申し上げます。

2014バレーボールミーティング実行委員会

委員長：横矢 勇一 印略

資料1-2

調査研究費助成に関する覚書

日本バレーボール学会(以下、甲とする)と_____ (_____) (以下、乙とする)
は調査研究費助成に関して、以下の通り覚書を交わすこととする。

調査研究費助成：

甲は乙の提案する以下の調査研究に対する費用を助成する。

調査研究名「 _____ 」

助成金：

助成金額は_____万円とし、甲は乙の指定する口座へ_____年____月____日までに振り込む。

期 間：

調査研究期間を次の通り定める。

_____年_4月_1日より_____年_3月_31日まで

調査研究費の管理：

- 乙は助成された調査研究費の使用に関する書類(領収書等)を管理する。
- 乙は甲に対して、当該研究助成期間終了後の_____年4月30日までに決算報告書を提出する。
- 甲は必要に応じてこれを監査する。

調査研究の報告：

- 乙は、助成された調査研究の成果を機関誌『バレーボール研究』第__巻に投稿する(____年2月まで)。なお、投稿に際しては、原則として、当該年度の日本バレーボール学会大会(第__回大会)での発表を前提とする。
- 乙は、当該調査研究を論文発表する際には、日本バレーボール学会調査研究費助成に基づくものであることを明記する。

この覚書は2通作成し、両者の押印の上、各1通を双方が保管する。

_____年__月__日

甲 住所 〒444-0005 愛知県岡崎市岡町原山12-5
愛知産業大学 後藤研究室内
日本バレーボール学会 印

乙 住所 〒

氏名 _____ 印

日本バレーボール学会 第20回記念大会 開催要項(案)

主催：日本バレーボール学会
主管：日本バレーボール学会 第20回 記念大会実行委員会
共催：早稲田大学スポーツ科学学術院

1. 期 日： 2015年3月7日(土) 12:30~17:35, 8日(日) 9:30~15:30
2. 会 場： 早稲田大学 早稲田キャンパス・戸山キャンパス
(アクセス方法は別紙『早稲田大学へのアクセス』を参照してください)
3. 大会参加登録方法・参加費

- (1) 大会参加登録方法：2015年1月31日(土)までに日本バレーボール学会ホームページ (<http://goo.gl/forms/vBZeCvQ4RV>) から参加登録をおこなってください。あるいは、別紙『参加登録申込書』に必要事項を記入し、ファックスにて日本バレーボール学会第20回記念大会事務局に申し込んで下さい。
- (2) 大会参加費：大会参加費を2015年1月31日(土)までに、下記口座に入金してください。下表に示したように、カテゴリーにより大会参加費は異なります。領収書が必要な場合は、事務局に申し出てください。なお、当日の参加登録も可能ですが、極力事前登録にご協力ください。

振込先金融機関：三菱東京UFJ銀行 高円寺支店
店番号および口座番号：店番号：155 普通預金 口座番号：1543120
口座名：松井泰二(マツイタイジ)

カテゴリー	参加費(事前登録)	参加費(当日登録)
学会員(一般)	4,000円(2日間)	5,000円(2日間)
学会員(学生)	無料	無料
非会員(一般)	2,500円(1日)	3,000円(1日)
非会員(学生)	1,500円(1日)	2,000円(1日)

※ 学生(大学生および大学院生)として参加申し込みされた方は、当日、受付で学生証の提示をお願いします。但し、高校生以下は無料(大会プログラムも配布)です。

※ 小、中、高校生を引率される指導者の方は事前に第20回記念大会事務局へ御連絡ください。別途対応させていただきます(参加費無料)。

4. 一般研究発表申込方法、発表方法および機関誌掲載用抄録の提出等

- (1) 発表申込方法：一般研究発表を希望する者は、別紙『一般研究発表申込要領』にしたがい、2015年1月31日(土)までに手続きを完了してください。
- (2) 発表方法：全てポスター形式の発表とします。ポスターは『一般研究発表申込要領』にしたがい作成してください。
- (3) 機関誌掲載用抄録の提出：一般研究発表の抄録を機関誌『バレーボール研究』に掲載します。別紙『機関誌掲載用抄録作成要領』に従い抄録を作成し、『機関誌掲載用抄録_氏名』とファイル名を付け、メール添付にて、2015年3月28日(土)までに事務局(matsui@waseda.jp)へ送信してください。

5. 20周年記念パーティー

20周年記念パーティーを3月7日(土)18:00より大隈ガーデンタワー「西北の風」でおこないます。

会員・非会員ともに5,000円です。2015年1月31日(土)までに、大会参加費と併せてご入金下さい。当日参加も可能ですが、準備の都合上、極力、事前に諸手続きを完了してください。当日参加の方は、受付にて手続きを完了してください。

6. 日本バレーボール学会 第20回記念大会のプログラム・抄録集

日本バレーボール学会 第20回記念大会のプログラム・抄録集は2015年2月中旬に送付予定です(住所変更等で未着の場合は第20回記念大会事務局にご連絡下さい)。また、一般参加の方で大会当日参加登録をおこなった方には、その場で配布致します。(なお、『日本バレーボール学会 第20回記念大会プログラム・抄録集』のPDFファイルは2月中旬以降、日本バレーボール学会ホームページよりダウンロードできます。)

7. 日本バレーボール学会 第20回記念大会事務局

担当：松井 泰二

〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15

早稲田大学 スポーツ科学学術院 松井研究室

TEL・FAX：04-2947-6785

E-mail: matsui@waseda.jp

資料3

日本バレーボール学会 第20回記念大会 日程(案)

場 所： 早稲田大学 早稲田キャンパス・戸山キャンパス

テーマ： 「RIO 2016 そして TOKYO 2020 へ ～ブラジルに学ぶ～」(仮題)

第1日 2015年3月7日(土) 早稲田大学 早稲田キャンパス 小野記念講堂

12:00～ <受付開始>

12:30～12:40 <開会の挨拶>

松井 泰二(日本バレーボール学会 第20回記念大会実行委員長)
() (日本バレーボール学会会長)

(休憩5分)

12:45～13:45 <特別講演>

【テーマ】(未定)

講 師：友添 秀則氏(早稲田大学スポーツ科学学術院長)(交渉中)

(休憩10分)

13:55～15:20 <基調講演>

【テーマ】ブラジルが目指すバレーボール

講 師：ジョゼ・ギマラエス氏(ブラジル女子シニア・元男子シニア監督)

(休憩15分)

15:35～17:35 <シンポジウム>

【テーマ】RIO 2016 そして TOKYO 2020 へ(仮題)

シンポジスト：ジョゼ・ギマラエス氏, 他2～3名(交渉中)

(25分)

18:00～20:00 <第20回記念パーティー> (大隈ガーデンタワー「西北の風」)

第2日 2015年3月8日(日)

9:00～ <受付開始> 早稲田大学 早稲田キャンパス 小野記念講堂

9:30～10:30 <一般研究発表 ポスターセッション>

(休憩10分)

10:40～12:00 <20周年記念フォーラム>

【テーマ】バレーボールにおけるブロックングについて

①ブロック技術の変遷(吉田, 石手)

②ブロック動作遂行過程の検討(松井, 根本)

③ブロックングのバイオメカニクス(黒川, 小林, 山田)

④ブロックにおけるスポーツ外傷・障害とその対応・予防(橋本, 板倉)

(休憩5分)

12:05～12:35 <総 会>

12:35～13:30 <休 憩>

13:30～15:30 <オンコートレクチャー> 早稲田大学 戸山キャンパス 記念会堂

【テーマ】ブラジルにおけるコーチング

講師：ジョゼ・ギマラエス氏

実技：早稲田大学バレーボール部員

15:30～ <閉会の挨拶>

(※若干の内容変更の可能性あります。講師の方は決定次第、本学会ホームページに掲載します。)

日本バレーボール学会 第20回記念大会 予算 (案)

2014/11/8

実行委員長 松井泰二

<収入の部>

項目	金額	摘要
大会補助費	400,000	本部2014年度予算
大会参加費	200,000	学会員(事前登録)@4,000×50名
	75,000	学会員(当日登録)@5,000×15名
	15,000	非会員一般(事前登録)1日@2,500×3名
	18,000	非会員一般(当日登録)1日@3,000×3名
	6,000	非会員学生(事前登録)1日@1,500×4名
	6,000	非会員一般(当日登録)1日@2,000×3名
広告料	1,000,000	実行委員会700,000 渉外委員会300,000
懇親会費	250,000	@5,000×50名
合計	1,970,000	

<支出の部>

項目	金額	摘要
印刷費	250,000	大会プログラム500部
	100,000	学会看板・ポスター
	20,000	大会封筒
通信費	120,000	大会要項等郵送
講師招聘費	900,000	交通費宿泊費講師(G氏)@790,000(wife含), 非学会員講師@20,000×4名 チーム謝礼@30,000×1
事務費	40,000	
食費	34,000	弁当(二日分)理事会・総会@850×40個
	34,000	弁当(二日分)実行委員会@850×40個
	51,000	弁当(二日分)学生補助@850×60個
接待費	10,000	飲み物等(役員控え室, 補助学生など)
懇親会費	250,000	大会参加者@5,000×50名
	40,000	講師・その他@5,000×8名
会議費	70,000	実行委員会会議, 講師交渉・打ち合わせ会費等
雑費	10,000	SDカード, HDD等
予備費	41,000	
合計	1,970,000	

一般研究発表申込要領

事項	要領
一般研究発表申込資格および条件	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 演者および共同研究者（大会に参加しない者も含む）は共に日本バレーボール学会会員で、<u>2014年度の会費を納入した者</u>に限ります。 ◆ バレーボールに関する研究であって研究として完結し、未発表のものに限ります。 ◆ 演者としての発表は1人1回に限ります。 ◆ 発表時間等の詳細はプログラムで発表します。
申込締切	2015年1月31日（土）（当日消印有効）
申込方法	<p>下記のいずれかの方法で日本バレーボール学会第20回記念大会事務局までお申込み下さい。できるだけ①の方法をお願いします。</p> <p>① 『一般研究発表申込書』を日本バレーボール学会のホームページ (http://www.jsvr.org/)よりダウンロードし、必要事項を入力後、メール添付で事務局まで送信してください。その際、<u>メールの件名を「一般研究発表申込（氏名）」</u>として下さい。</p> <p>② 同封の「一般研究発表申込書」に必要事項を記入後、日本バレーボール学会第20回記念大会事務局にFAXにて送信して下さい。</p> <p>事務局： 早稲田大学 スポーツ科学学術院 松井研究室 住 所： 〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15 TEL/FAX： 04-2947-6785 E-mail： matsui@waseda.jp</p>
ポスターのサイズと作成要領	縦180×横90cmで、上部20cmに演題、演者氏名、共同研究者氏名および所属機関を入れること（下図参照）。
抄録執筆要領	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 所属機関名は演者ならびに共同研究者を列記した後、改行して記入し、所属機関名の左肩に記入順に番号を付けること。演者および共同研究者の所属機関は、演者および共同研究者の右肩に所属機関の番号で表示すること。 ◆ キーワードを2～5語記入すること。 ◆ 抄録内容は目的・方法・結果・考察・結論の順でなるべく項目別にまとめること。
発表取消・変更	発表取消や発表者の変更がある場合は、日本バレーボール学会第20回記念大会事務局に <u>2015年2月20日（金）</u> までに、メールまたはFAXで連絡すること。

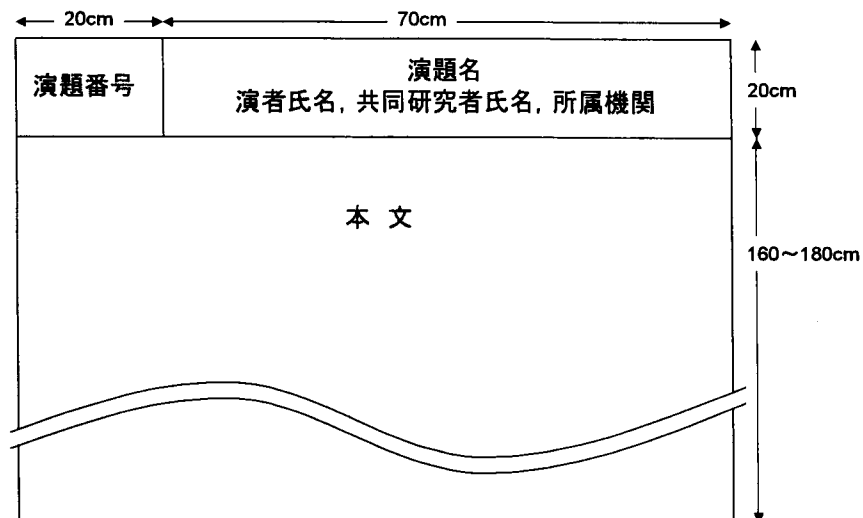
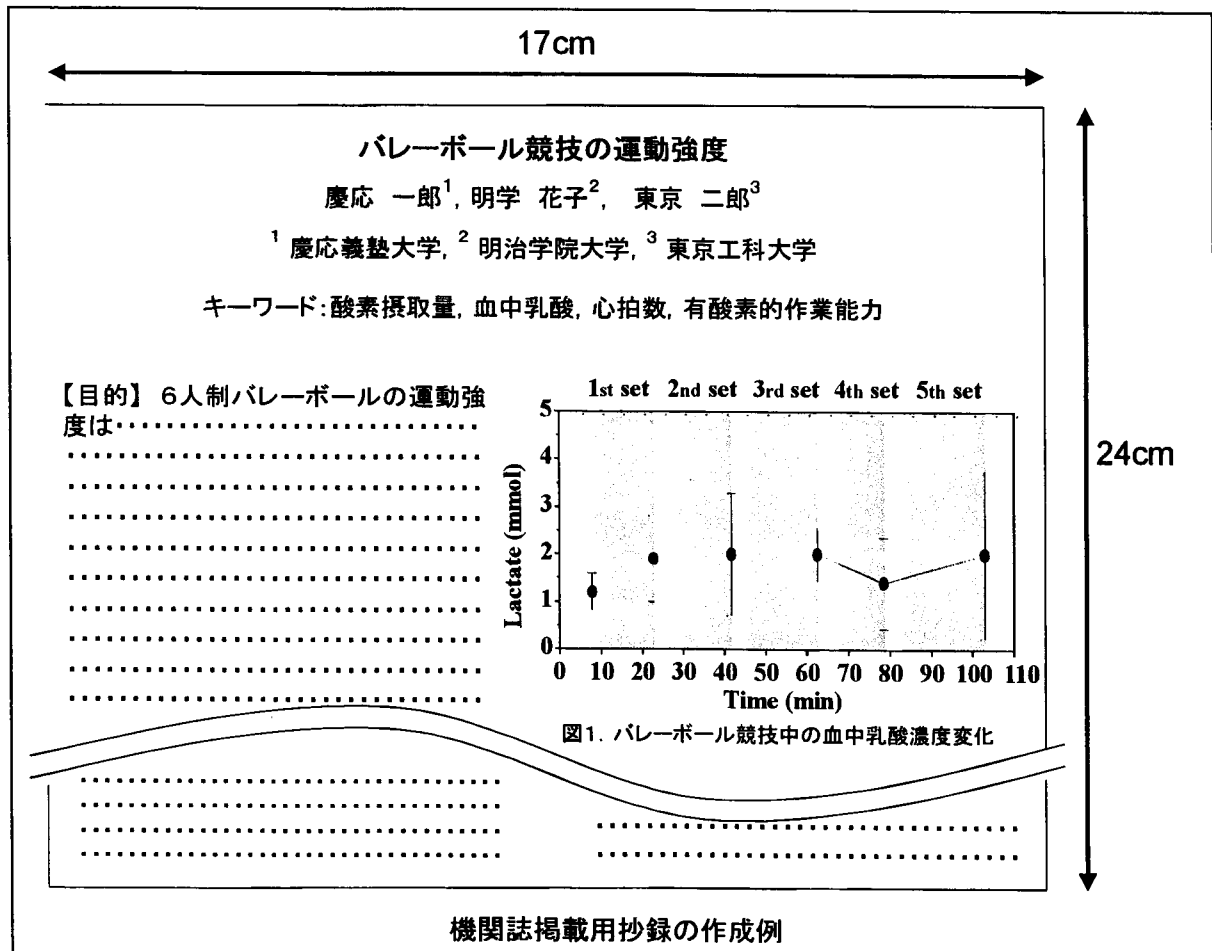


図. ポスターの大きさと作成要領

機関誌掲載用抄録作成要領

- 1) A4用紙(白)1ページ(印字範囲:縦24cm×横17cm)を用い、必ずワードプロセッサ(10.5ポイント明朝体)で作成すること(下図参照)。
- 2) 形式: 演題名, 演者名, 所属機関名, 内容要旨を範囲に収まるようにまとめること(下図参照)。
- 3) 演題名は最上段の1行目または2行目を使用すること。副題がある場合は行を改めること。演題名は12ポイント太字とする。
- 4) 演者名, 共同研究者名および所属機関名は4行と5行を使用すること。演者名の前に○印を付けること。所属機関名は演者ならびに共同研究者を列記した後, 改行して記入し, 所属機関名の左肩に記入順に番号を付けること。
- 5) 演者および共同研究者の所属機関は, 演者および共同研究者の右肩に所属機関の番号で表示すること。
- 6) キーワードを6行目に2~5語記入すること。
- 7) 抄録内容は7行目から記入すること。目的, 方法, 結果, 考察, 結論の順でなるべく項目別にまとめること。ただし, フォーラム・セクションで発表した演題については, そのまとめ方は上記の形式にとらわれることなく自由とするが, 発表内容, ディスカッション内容を含めてまとめる。
- 8) 図, 表および写真を掲載する場合でも必ず本文枠内に収めること。
- 9) 図および表は原稿用紙に直接作成するか, 白色または薄青色の方眼紙に黒インクで作成して原稿用紙に貼り付けること。写真はスキャナーで取り込み, 原稿用紙にコピー&ペーストするか, 写真そのものを原稿用紙に貼りつけること。なお, 説明文の文字の大きさにも考慮すること。



日本バレーボール学会 第20回記念大会

大会名誉会長： 友添秀則（早稲田大学スポーツ科学学術院長）

大会会長： （ ） （日本バレーボール学会会長・（ ）大学）

☆組織委員会

委員長： 遠藤俊郎(大東文化大学・JSVR 会長)

副委員長： 柏森康雄(大阪体育大学・JSVR 副会長)，明石正和(城西大学・JSVR 副会長)

河合 学(静岡大学・JSVR 理事長)，松井泰二（早稲田大学）

委員： （JSVR 理事）石手 靖（慶應義塾大学），板倉尚子（日本女子体育大学），
小川 宏（福島大学），勝本 真（茨城大学），川田公仁（つくば国際大学），
黒川貞生（明治学院大学），黒後 洋（宇都宮大学），後藤浩史（愛知産業大学），
小林 海（目白大学），小林宣彦（都立小川高等学校），
篠村朋樹（木更津工業高等専門学校），杉山仁志（武蔵丘短期大学），
高根信吾（常葉大学），高野淳司（一関工業高等専門学校），
田中博史（大東文化大学），徳永文利（国際武道大学），中西康巳（筑波大学），
橋本吉登（湘南東部総合病院），廣 紀江（学習院大学），古澤久雄（かのやスポーツ研究所），
湯澤芳貴（日本女子体育大学），吉田清司（専修大学）

監 事： 島津大宣（JSVR 監事），藤島みち（夙川学院短期大学・JSVR 監事）

☆実行委員会

委員長： 松井泰二（早稲田大学）

副委員長： 黒川貞生（明治学院大学），吉田清司（専修大学）

会 場 ○小林海（目白大学），塚田圭裕（早稲田大学），山田雄太（大同大学）*企画

会 計 ○塚越健司（早稲田大学本庄高等学院），[]（ ）*事務局

庶 務 ○綿引亮太（早稲田実業学校），篠沙織（早稲田大学）[]（ ）

*総務

受 付 ○多治見麻子（早稲田大学），根本 研（日本体育大学）*企画

記 録 ○森 裕紀（早稲田大学），高橋宏文（東京学芸大学）*編集

渉 外 ○石手靖（慶應義塾大学），松井泰二（早稲田大学）*渉外

（○印：責任者，*印：学会担当委員会）

日本バレーボール学会 2015 バレーボールミーティング (案)

テーマ:「地域から日本のバレーボールを変える～オガールベースの挑戦～」

主 催:日本バレーボール学会

後 援:岩手県バレーボール協会, 紫波町

期 日:2015年8月8日(土)10:00～15:30

会 場:紫波町情報交流館, オガールベース(岩手県紫波町オガールプラザ内)

■2015バレーボールミーティング実行委員会

名誉会長:小笠原義文(岩手県バレーボール協会会長)

会 長: (日本バレーボール学会会長)

実行委員長:高野淳司(一関工業高等専門学校)

実行副委員長:黒川貞生(明治学院大学), 吉田清司(専修大学)

実行委員:千葉智行(盛岡大学), 小川宏(福島大学), 石丸出穂(仙台大学), 三村泰成(鶴岡工業高等専門学校), 松尾忠利(福島工業高等専門学校), 三上浩永(岩手県立住田高等学校)

■日 程

09:30～10:00 受付(場所 紫波町情報交流館 大スタジオ)

10:00 開会 挨拶

10:10～12:30 講演

第一部 講師:岡崎正信氏(オガールベース株式会社代表取締役)

「(仮)オガールは日本バレーの「何を」変えるのか?」

第二部 講師:綱島久子氏(OWLS紫波バレーボールアカデミー)

「(仮)OWLS紫波バレーボールアカデミーの新たな選手育成システム」

～昼食～

13:30～15:30:オンコートレクチャー(場所 オガールアリーナ)

講師:OWLS紫波バレーボールアカデミースタッフ

「(仮)エリート・リーダーの育成を目的としたジュニア指導」

15:30 閉会

■ 参加費

カテゴリー	参加費(事前登録)	参加費(当日登録)
会員(一般)	1,000円	1,500円
会員(学生)	無料	無料
非会員(一般)	1,500円	2,000円
非会員(学生)	500円	500円

※学生は受付時学生証を提示, 高校生以下は無料

※小, 中, 高校生を引率される指導者の方は事前に2015バレーボールミーティング実行委員会事務局へ御連絡ください。別途対応させていただきます(参加費無料)。

■参加申込方法

以下の方法でお申込み下さい。当日の受付混雑緩和のため、事前申込みにご協力ください。

○事前申込みの方・・・2015年8月1日(土)までに申込み登録フォーム<http://goo.gl/forms/nX1iVnznQI>に直接アクセスし, 必要事項を入力して送信してください。また参加費も2015年8月1日(土)までに下記の口座にお振込ください。

振込先金融機関: ○○銀行

支店および番号: ○○支店(店番号: ○○○), 口座番号: ○○○○○○

口座名義: ○○○○ (○○○○○○)

○当日申込みの方・・・申込み登録フォームは使用せず, 当日, 受付にて手続きを完了してください。

■情報交換会

16:30より「シュガーズカフェ(予定)」(オガールプラザ内)において講師を交えての情報交換会を開催いたします。会費は会員・非会員ともに3,000円です。2015年8月1日(土)までに参加費と併せてご入金下さい。当日参加も可能ですが, 準備の都合上, 極力事前のお手続きをお願いいたします。当日参加の方は, 受付にて手続きを完了させてください。

■2015バレーボールミーティング実行委員会事務局

担当: 高野 淳司

〒021-8511 岩手県一関市萩荘字高梨 一関工業高等専門学校

TEL/FAX: 0191-24-4792

E-mail: takano@ichinoseki.ac.jp

資料 4

2015年度バレーボールミーティング予算（案）

【 収入の部 】

項目	金額	摘要
ミーティング補助費	¥200,000	本部2015年度予算
ミーティング参加費	¥20,000	学会員（事前登録）：@1,000 × 20
	¥15,000	学会員（当日登録）：@1,500 × 10
	¥30,000	非会員（事前登録）：@1,500 × 20
	¥20,000	非会員（当日登録）：@2,000 × 10
広告収入	¥100,000	広告協賛金
合計	¥385,000	

【 支出の部 】

項目	金額	摘要
講師費	¥60,000	講師謝礼：@20,000 × 3名
プログラム印刷費	¥100,000	ミーティングプログラム
通信費	¥30,000	ミーティング案内郵送
事務費	¥10,000	消耗品等
食費	¥21,000	弁当：@700 × 30
実行委員旅費	¥89,380	実行委員交通費・前泊代
会議費	¥65,460	会議室費，アリーナ12時～16時 @2160
雑費	¥9,160	
合計	¥385,000	

日本バレーボール学会 20周年記念出版
バレーボールの歴史本 進捗状況

報告：河合学

.....構成と担当者.....

第1章 バレーボールの誕生からアメリカ合衆国での発展 ～6人制の完成～ (1890年代から1920年ころ)

河合

第2章 世界への広まりから6人制の完成、世界大会の開催 (1920年ころから近代) 河合
(オリンピックを含む)

第3章 日本への伝来と普及そして発展 (1900年代から現代)

田中先生

第4章 さまざまな視点から見た歴史

- | | |
|--------------|------|
| ○日本代表チーム | 河合先生 |
| ○実業団バレーとVリーグ | 松井先生 |
| ○大学バレーボール | 柏森先生 |
| ○高等学校バレーボール | 高橋先生 |
| ○中学校バレーボール | 小川先生 |
| ○小学校バレーボール | 湯澤先生 |
| ○ママさんバレー | 後藤先生 |
| ○戦術の変化 | 後藤先生 |
| ○ルールの変遷 | 柏森先生 |
| ○用具の変遷 | 田中先生 |
| ○ビーチバレー | 古澤先生 |

.....内容構成見本.....

第1章 バレーボールの誕生からアメリカ合衆国での発展 ～6人制の完成～

年表 (1 ページ、1870 年から 1927 年、14 項目)

=河合=

■詳細解説

- ・ W・G・モルガン氏生誕
 - ・ 国際 YMCA トレーニングスクールに入学
 - ・ ホリヨーク YMCA へ赴任
 - ・ 新しいスポーツ「ミントネット」の開発・誕生
 - ・ 初のデモンストレーション・ゲーム
 - ・ バレー・ボールの名称が登場
 - ・ 公認ルールの制定
 - ・ 公認ルールの改正
 - ・ YMCA と NCAA による公認ルールブックの刊行
 - ・ 6人制バレーボールの完成
 - ・ 全米 YMCA 選手権大会の開催
 - ・ 全米 YMCA 選手権大会の発展的解消と YMCA からの発展的離脱
- 【コラム 1】 プレイグラウンド運動
※見本 1
- [資料 1] 1896 年当時の競技規則
[資料 2] 1900 年のルール改正
- 【コラム 2】 ローテーションの導入
※見本 2
- [資料 3] 1916 年のルール改正

第2章 世界への広まりからから世界大会の開催

=河合=

年表

資料 5

■詳細解説

- ・ 世界への広まり
- ・ 国際バレーボール連盟 (FIVB) の設立
- ・ 世界大会の開催へ [資料 1] 世界大会の開催年と開国
[資料 2~4] 大会結果 (世界選手権、W-Cup、五輪)
【コラム】五輪種目への道 ※見本 3
- ・ 世界選手権 1~3 回 (1949~1956 年男子)
- ・ コンビネーションの世界へ (1964 年男子)
- ・ 中国の台頭 (1981 年女子)

第3章 日本への伝来と普及そして発展 (1900年代から現代) =田中先生=

- ・ 日本への伝来
- ・ 9人制から6人制へ
- ・ アウトドアからインドアへ
- ・ 日本バレーボール協会の発足
- ・ 実業団バレーと大学バレー
- ・ 全日本チームの活躍

第4章 さまざまな視点から見た歴史

○日本代表チーム =高根先生=

年表 (国際連盟加盟後における三大会の結果、男女別)

■詳細解説 (オリンピックを中心に)

- ・ オリンピック金メダル獲得 (予選・決勝全試合のスコア、監督・キャプテンなどの回顧録、決勝時のスターティングオーダーなど)
- ・ 女子: 東京オリンピック: 東洋の魔女
- ・ 男子: ミュンヘンオリンピック: ミュンヘンの奇跡
- ・ 女子: モントリオールオリンピック
- ・ 最終予選敗退時代を経てオリンピック再出場
- ・ 男子: 北京オリンピック
- ・ 女子: アテネオリンピック
- ・ 女子: ロンドンオリンピック銅メダル獲得

○全日本大学バレーボール連盟の歩み =柏森先生=

年表 (25 項目に分けて年表を作成)

主に全日本大学連盟の設立並びに各地方学連の設立状況をまとめた。

また、全日本インカレの大会形式や運営方法の変遷についてまとめた。

■詳細解説 *写真 5 枚含む

- ・ 1940 年 全日本学生排球連盟結成
- ・ 1950 年 全日本大学バレーボール連盟設立
- ・ 1954 年 全日本大学女子バレーボール連盟設立
- ・ 1996 年 男女の全日本連盟を全日本大学連盟に一本化
- ・ 2013 年 全日本インカレの開催方法の変更

<トピックス>

- ・ 東西学生対抗戦

- ・学連マークと学連旗
- ・天皇杯・皇后杯全日本バレーボール大会と大学バレー
- ・6人制と大学バレー
- ・ミュンヘンオリンピックと大学バレー
- ・全日本男子インカレの優勝校一覧表
- ・全日本女子インカレの優勝校一覧表

○高校バレーボール =高橋先生=

- ・高校バレーの創成期（1938年～1945年）
- ・高校バレーの本格的普及（1946年に国体、1948年にはインターハイが始まる～1969年）
- ・高校バレーの更なる盛り上がり（1970年春高バレーが始まる～現在）

○中学校バレーボール =小川先生=

年表

■詳細解説

- ・中学校運動部活動数と所属人数の変遷

[資料1] 昭和53年～平成25年の運動部数&所属人数比較グラフ

- ・9人制から6人制へ
- ・JOC杯について

○ルールの変遷（東京オリンピック後のルール改正） =柏森先生=

年表（13項目に分けて国際ルールの改正を年表にまとめた）

■詳細解説（トピックス）

- ・ブロックのルール改正の経緯（裏話）
- ・ブロックのルール改正に伴うゲーム内容の変化について
- ・ブロックのルール改正に伴う戦術の変化について
- ・サービスに対するブロック禁止とサービスについて
- ・ラリーポイント制と勝敗予測
- ・リベロ制について

○用具の変遷 =田中先生=

- ・ボール
- ・コート、土のコートからタラフレックスまで
- ・ボール
- ・ユニホーム、シューズの変化

【見本1】 コラム：プレイグラウンド運動とレクリエーションスポーツの発達

モルガン氏がバレーボールを考案した19世紀後半は、ヨーロッパやアメリカで「プレイグラウンド運動」が起こり、その影響から多数のレクリエーションスポーツが開発・考案された。バレーボール以外にも本編でも紹介したネイスミス氏のバスケットボール、ギュリック氏のミントン、少年年代は前に戻るがカートライト氏のベースボールなどもそれらに含まれる。では、プレイグラウンド運動とはいったい何だったのだろうか。

南北戦争が終結した19世紀後半のアメリカでは、急速な産業の発展とともに都市化が進み、貧困、非衛生、道徳の退廃、暴力の蔓延、青少年の非行問題、環境の悪化などが深刻な社会問題となっていた。そのような社会から子どもたちを守るために、初期段階ではボストンにサンドガーデン（砂場遊園）が作られ、自由で自発的な遊びができる環境を子どもに与えることにより危険な場所から隔離するとともに、子どもの健全な発達を促すことに成功した。また、その成功を機にさまざまな団体が青少年に体育やスポーツ・レクリエーションの機会を提供するために設立され、少年の犯罪や非行、ギャング集団の台頭、劣悪な住宅やスラム街におけるさまざまな問題に対応する防衛手段となっていた。その活動がアメリカ全土に広がると、砂場だけでなくブランコやシーソーなどの簡単な遊具が配置され、さらに球技などのスポーツが行える公園となり、構内に芝生や花を植えたり休憩所やシャワー室を設置するなど、充実した設備を備え、市民に開放されることになった。このようにして子どもたちのために遊び場を作ることが目的で始まった運動が「プレイグラウンド運動」であり、その活動が発展して、プレイグラウンド（運動場）を含む公園に地域社会の中心を置き、スポーツ活動等多くのレクリエーション活動が提供されていったのである。そして、プレイグラウンド運動はやがてレクリエーション運動へと発展し、多くのレクリエーションスポーツとともに普及していくことになった。さらに、学校現場においても、自然環境の保全や子どもをはじめ地域住民全体の健康維持に関心が高まり、レクリエーション指導者を養成するための支援にあたった。この時期のYMCAではその流れに乗って会員が増加すると同時に、体育指導員により多くのレクリエーションスポーツが考案されたものと考えられているが、残念ながら現代までスポーツとして残っているものは「バレーボール」と「バスケットボール」だけである。

【見本2】 コラム：ローテーションの導入と時計回りの謎

1912年のルール改正でバレーボールに「ローテーション」が採用されたことは画期的な出来事であった。通常、多人数でプレーする球技はポジションがほぼ固定されているのが普通であった。当時すでに存在したスポーツでは、テニスや野球、バスケットボールがその代表であろう。自分の得意なポジションが基本の位置であり、そこから動きが始まって、ワンプレー終わればまた元の決められたポジションに戻るといった方式である。では、バレーボールにローテーションという概念が持ち込まれたのはどうしてだろうか。そこにはモルガン氏およびYMCAによる“レクリエーションとして皆が平等に楽しめるスポーツ”を目指したバレーボールに対する思いを読み取ることができる。たぶん初期の段階から、コート内にいる上手な選手ばかりがネット際で活躍して得点するというゲームが展開されたことに危機感を抱いたYMCAスタッフたちは、その選手が活躍できる場を狭め、他の選手がもっと積極的にプレーに関与できるように状況を作り、コート内のプレーヤー全員が等しく参加できるというスポーツにしたいという考えの上で、ローテーションを導入したものと推察される。結果的にローテーションの導入はコート内の選手が等しくプレーに参加できるようになったと同時に、攻撃面においても守備面においても選手の動きに多様なパターンを生み出すこととなり、組織的な戦術面での幅を広げてバレーボールをより面白いスポーツにすることにつながった。

では、ローテーションはなぜ時計回り（右回り）になったのであろうか。現在のスポーツでいうと、陸上競技のトラック種目や野球のダイヤモンドは反時計回りと決まっていますが、時計回りで選手がローテーションするスポーツというのはバレーボール以外に存在しない。反時計回りが主流の中で敢えて時計回りにしたように捉えられるかもしれないが、実はバレーボールの競技特性から選手の動きが必然的に時計回りになったのではないかと推測できる。右利きの選手が圧倒的に多い中で、サーブをエンドライン後方から打つ際は右側から打つ方がやりやすいというのは一般的な感想である。テニスのサーブを思い出してもらえればわかる通り、フォアサイドのサーブに比べてバックサイドのサーブは少々打ちづらい。したがってバレーボールにおいてもサーブを打つ位置は自然の流れでコート右後方になり、結果的にサービスエリア自体が右サイドラインから3m以内のエンドライン後方というルールが取り入れられたことになった。コート右後方からサーブを打つとなるとバックに回って来た選手がそのままサービスエリアに入るに

は人の動きが時計回りのローテーションにならざるをえず、そのままバレーボールのローテーションとして取り入れられたのではないだろうか。しかしよく考えてみると、人の動きは時計回りになっているが、記録上のサーブを打つ順番はちゃんと反時計回りになっているのである。

ちなみに、野球に関してはアレクサンダー・カートライトが1845年に地域ルールをまとめて新たな野球というスポーツを確立したときにダイヤモンドの反時計回りが決められているが、バレーボールのローテーションがルール化された1912年当時、陸上競技のトラックは反時計回りもその逆も存在し、大会によって変えられていたという。オリンピックですら第3回(1904年)まで時計回りに走っていたようである。そして国際陸上競技連盟が「トラック競技は反時計回りに走る」というルールを採用したのは1913年のことであった。時計回りも逆回りも走る距離は同じであるが、現実的に半時計回りの方が速いということの理由付けとして、「心臓説」「右利き手説」「脚の機能説」「記録説」などの説が挙げられているが、科学的な根拠はまったくないということである。

【見本3】 コラム：オリンピック種目への道

終戦後間もなくに設立された日本バレーボール協会(JVA)の当時の西川政一会長が天皇陛下の前で「現在、世界のバレーボールは国際ルール、米国ルール、極東ルールの三流に分かれているが、いずれこれらを統一してオリンピックで堂々とワザを競い合いたい」と大ミエを切った。まだ日本が国際バレーボール連盟(FIVB)に加盟する2年前のことであった。

FIVBは1947年に14カ国で設立され、年とともに加盟国が増えていった。日本は1951年に加盟している。リポ一会長らはことあるごとに「バレーボールの国際競技会は多数の国が参加し、観衆も多数集まる大衆スポーツである。夏でも冬でも季節を問わずにできる上、技術と体力の必要さでは他のスポーツにけっしてひけをとらない」と、国際オリンピック委員会(IOC)に“正式種目”としてオリンピックの仲間入りを働きかけた。こうした努力が実り、1957年、FIVB創立10周年の年にオリンピック種目に加えられることになった。

しかし、これでバレーボールがオリンピックに参加できるというわけではない。オリンピックの実施種目になるにはオリンピックを開催する国の組織委がオリンピック種目として認められている21種目の中からいくつかを選択するのである。いわば開催国が選んでくれない限りは、権利はあってもいつまでも陽の目を見られないことになる。バレーボールが幸運だったのは、1959年のIOC総会(ミュンヘン)でトウキョウの開催が決定したことであった。このとき開催地を競ったデトロイト(米国)、ウィーン(オーストリア)、ブリュッセル(ベルギー)のいずれかに決まっていたら、バレーボールの出番は回ってこなかったかもしれない。なにしろ東京は招致のうたい文句に「21種目を全部やる」としていたのに比べ、他の3都市は日本よりもバレーボールが盛んでなかったからである。

実際にはそこからが大変だった。東京開催が決定してから間もなくIOCから「最近のオリンピックはマンモス化しているので18種目くらいに縮小してはどうか」と勧告があった。新参者のバレーボールが18の枠に入るのは至難のワザに思え、特にIOCの示した縮小案では参加人数の多いボールゲームに風当たりが強かった。残念ながら東京オリンピック組織委は費用のことを考えてIOCの縮小案を歓迎し、18種目案を採用することにした。

泣きついても無駄なことを知ったJVAは“力”でその重要さを示し、国民を動かす方針に出た。1960年にブラジルで開催された世界選手権に日本代表を初参加させ、男子8位、女子2位という上々の成績を収めた。同じ年に世界チャンピオンのソ連男女を招待して第1回の日ソ戦を開催し、その熱戦ぶりから「もしかしたら金メダルが取れるかもしれない」「バレーボールをオリンピック種目から落とすな」という国民からの声が高まり、その結果、見事に日本案18種目の中にバレーボールが入ったのである。

この決定に海外のスポーツ関係者やマスコミから「日本は伝統ある近代五種とカヌーに関心が薄いと除外し、金メダルを取れそうなバレーボールと柔道を加えたことは、メダル至上主義に拍車をかける」と非難された。しかしこの問題は1961年のIOC総会(アテネ)で票決による賛成多数で東京オリンピックでの実施として決着した。この総会に乗り込んでいた今鷹昇一JVA副理事長は「現地の新聞記者から“危ないらしい”という情報を耳にしていたが、ブランデーIOC会長が“バレーボールは純粋なアマチュアスポーツであり、普及率が高い上に安価にできる”という一声で情勢が傾いた」とその一瞬を語っている。西川JVA会長の夢とバレーボールの未来が開けた瞬間でもあった。

日本バレーボール学会 会則

1996年5月25日制定
1998年3月28日改正
1999年3月21日改正
2003年3月23日改正
2004年3月27日改正
2006年3月4日改正
2009年3月1日改正
2015年3月〇日改正

第1章 総則

第1条 本会は、日本バレーボール学会 (The Japanese Society of Volleyball Research) と称する。

第2条 本会は、バレーボールに関する科学研究とその発展に寄与するとともに、会員相互の情報交換、研究協力を促進することによって文化としてのバレーボールの発展をはかり、これによってバレーボールの実践に資することを目的とする。

第2章 事業

第3条 本会は、第2条の目的を達成するために、次の事業を行う。

1. 研究大会の開催
2. 研究集会・講演会等の開催
3. 機関誌「バレーボール研究」、会報、会員名簿の刊行、ならびにその他の出版
4. 研究の学際的、国際的交流
5. その他本会の目的に資する事業

第3章 会員

第4条 会員の種別は次の通りとする。

1. 正会員：本会の趣旨に賛同し、本会会費を毎年度納入している者をいう。
2. 特別会員：正会員以外の団体及び個人で、本会の趣旨に賛同する者をいう。
3. 購読会員：本会の趣旨に賛同し、学会発行の定期刊行物の送付を目的とする者をいう。

第5条 本会に入会を希望する者は、会費を添えて事務局に申し込むものとする。

第6条 会員は、本会の機関誌その他研究情報に関する刊行物の配付を受けることができる。

第7条 正会員で2カ年会費を納入しない者は退会したものとみなす。

第4章 役員

第8条 本会に次の役員を置く。

1. 会長（1名）
2. 副会長（2名）
3. 理事（25名）
4. 監事（2名）

第9条 本会に名誉会長、特別顧問及び顧問をおくことができる。名誉会長、特別顧問及び顧問は

理事会の推薦により、総会において決定する。

第10条 役員は次の各項により選任される。

1. 会長・副会長及び監事は、理事会の議を経て、総会において決定する。
2. 理事の選出は、選挙管理委員会が行い、正会員による5名連記の投票により選出し、総会において決定する。
3. 理事のうち若干名は会長が委嘱することができる。

第11条 役員の任期は3年とし、再任を妨げないが、会長、理事長は2期までとする。また、任期途中であっても、事故等により活動が不可能となった場合、あるいは本会の役員としてふさわしくない行為等があった場合は、理事会の議を経て、これを解任することができる。

第12条 本会の役員は、次の責務を負う。

1. 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長事故ある時は、これを代行する。
3. 会長・副会長および理事は理事会を構成し、理事長を選出する。
4. 理事長は会長を補佐し、総会及び理事会の議決に基づき、会務を執行する。
5. 理事会は、必要に応じて専門委員会を設け、委員を委嘱することができる。
6. 監事は、本会の業務及び会計を監査する。

第5章 会議

第13条 本会の会議は、総会及び理事会から構成される。

第14条 総会は、年1回会長がこれを招集し、次の事項を審議する。

1. 役員の選出
2. 事業報告及び収支報告
3. 事業計画及び収支予算
4. 会則、会費の改正
5. その他重要事項

第6章 会計

第15条 本会の経費は、次の収入によって支出する。

1. 正会員の会費（会費の額は理事会の議を経て総会で決定される）
2. その他

第16条 本会の会計年度は、毎年4月1日より翌年3月末日までとする。

第7章 事務局

第17条 本会の事務局は、原則として理事長が所屬する機関に置く。本会の事務局は、細則により定めた期間に置く。

第8章 付則

本会則は2009年3月1日より施行する。

本会則は2015年3月〇日より施行する。

「事務局所在に関する細則」

1. 事務局は、以下の住所におくものとする。

〒417-0801

静岡県富士市大淵 325

常葉大学 経営学部

高根 信吾

2015年3月○日制定

2014/11/8

会長・副会長選挙開票結果

・有権者:245名(内 住所不明者7・送付数:238 ・不達:2 ・返送数:67(内 期限切れ2)

有効投票数65票

会長選挙開票結果	
河合学	24
柏森康雄	7
明石正和	4
都沢凡夫	4
亀ヶ谷純一	3
島津大宣	2
鳥羽賢二	2
吉田敏明	2
浜野光之	2
松井泰二	1
黒川貞生	1
小林宣彦	1
廣紀江	1
小川宏	1
山本章雄	1
古沢久雄	1
渡辺寿規	1
浅井正仁	1
壬生義文	1
橋本吉登	1
高橋宏文	1
川岸与志男	1
後藤浩史	1
白票	1

総票数 65

有効投票数129票

副会長選挙開票結果				
遠藤俊郎	13		浅井正仁	1
黒川貞生	9		有賀誠司	1
古沢久雄	7		梅崎さゆり	1
柏森康雄	6		大江芳弘	1
田中博史	6		角谷修	1
鳥羽賢二	6		勝本真	1
明石正和	5		亀ヶ谷純一	1
篠村朋樹	5		小林宣彦	1
石手靖	4		澤井亨	1
小川宏	4		穴戸隆之	1
廣紀江	4		清水直樹	1
黒後洋	3		杉山仁志	1
高根信吾	3		為山誠司	1
高野淳司	3		塚本博之	1
中西康巳	3		手川勝太郎	1
布村忠弘	3		橋本吉登	1
松井泰二	3		福田隆	1
泉川喬一	2		村本伸幸	1
小口章治	2		山本章雄	1
金子美由紀	2		湯澤芳貴	1
河合学	2		横沢民男	1
川田公仁	2		吉田敏明	1
島津大宣	2			
高梨泰彦	2			
藤島みち	2			
都沢凡夫	2			
渡辺寿規	2			

総票数 129

以上の通り、ご報告させていただきます。
選挙管理委員長 田中 博史

資料 7

役員選出方法に関する申し合わせ事項

「目的」

1. 会則第10条による役員選出を円滑ならしめるために本申し合わせ事項を定める。

「選挙管理委員会」

2. 会長は正会員（理事）の中から、選挙管理委員5名を委嘱し、選挙管理委員会（以下「選管委」という）を組織する。
3. 選管委は会長の命により選挙に関する事務処理を行う。
4. 選管委は互選により、委員長・副委員長各1名を選出する。委員長は選管委を代表し、その業務運営の責に任じ、副委員長は委員長を補佐し、委員長が事故あるときはこれを代理する。委員は選管委の業務を行う。

「被選挙権・選挙権の付与」

5. 役員被選挙権は役員任期満了年度の前年度会員であり、当該役員選挙投票締切日において、引きつづき正会員である者に、また、選挙権は当該役員選挙投票開始日に正会員である者に付与される。

「役員選挙の順位」 選出

6. 役員選挙は会長、副会長、監事、理事の順に行う。

「会長、副会長の選出」

7. 理事会において会長1名、副会長2名の候補者を選出し、総会において決定する。
* 役員任期満了年度の11月開催予定の理事会で行う。

「監事の選出」

8. 監事2名は正会員の中から会長が任命し、総会において決定する。

「理事の選出」

9.
 - (1) 理事には会員選出理事および会長推薦理事をおくものとする。
 - (2) 会員選出理事の選挙は正会員による5名連記の書面投票による。
 - (3) 会員選出理事の投票は、予め送付する投票用紙を用い、指定の期日までに選管委に到着したものを有効とする。
* 選挙は役員任期満了年度の1月開催要予定の理事会までに行う。
 - (4) 理事の当選者はそれぞれの得票数の順により、上位から定数までとする。
 - (5) 定数の境界に同点者が生じた場合は、選管委がこれを抽選する。
 - (6) 会長推薦理事は会長、副会長、監事、理事の選挙終了後、会長が推薦する。

選出